

FUSO REPORT



第65期中間報告書

2021年4月1日から2021年9月30日まで

扶桑化学工業株式会社

証券コード 4368



トップインタビュー(Q&A)

TOP INTERVIEW

株主の皆さまには平素より格別なご理解とご支援を賜り、
誠にありがとうございます。心より感謝申しあげます。

Q1 当上期の業績についてお聞かせください。

当社グループは従業員への新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しながら、各事業においても製品供給体制を完全に整えることで、経営基盤の一層の強化に取り組みました。新型コロナウイルスの当社グループ業績への影響は、全般的には限定的で、当第2四半期連結累計期間の売上高は251億6千7百万円(前年同期比23.7%増、48億2千7百万円増)、営業利益は64億2千5百万円(同38.8%増、17億9千5百万円増)、経常利益は64億円8千2百万円(同43.9%増、19億7千7百万円増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は44億8千8百万円(同45.4%増、14億1百万円増)の増収増益となり、売上高・すべての利益において半期ベースで過去最高の業績になりました。

Q2 中期経営計画の初年度も半分過ぎましたが、手応えはいかがですか？

期待以上に良いスタートをされています。電子材料事業においては、コロナ禍による半導体需要が私たちの想定以上に旺盛です。動画配信、リモートワークへの移行や5Gの進展などの技術革新のスピードが加速し、当社の主力製品である『超高純度コロイダルシリカ』は、お客様から非常に多くのご要望をいただけている状況です。また、ライフサイエンス事業においても鹿島事業所のリンゴ酸設備の本格稼働で量産体制も完成し、売

上高を大きく伸ばしています。既存の両事業が高水準で推移しており、計画の初年度として、確実な手応えを感じています。

Q3 直近の原材料費の高騰や円安など急激な環境の変化についてはどう対応されていますか？

身近な製品の値上げが相次いで発表され、連日「食卓を直撃」とニュースに取り上げられていますね。当社においても、原料となるトウモロコシの価格やコロイダルシリカの原料である金属ケイ素の価格が急騰しており、事業に大きな影響がでています。

事業運営として、原材料価格の上昇は予めリスク要因として織り込んだ上で計画を立てていますが、実際は、予想を上回るレベルで推移をしています。コスト削減、効率化は進めていますが自社努力だけでは吸収しきれないため、お客様に価格改定をお願いしている状況です。



Q4 社長就任から1年半、これまでに特に意識して取り組まれたことについてお聞かせください。

やはりコロナ禍における社員の安全・安心、健康に留意しました。社員があってこそその会社です。社員一人ひとりの努力もあり、製造ラインが止まるようなこともなく、営業活動、研究開発を着実に進めることができ、業績も堅調に推移できているので感謝の思いでいっぱいです。

このコロナ禍で当社は、SDGsの取り組みの一環として、『良い製品は、体と心の健康から生まれる』というFUSO健康宣言を掲げました。このタイミングでの健康宣言となりましたが、「身体は資本」であることを、改めて認識できたいい機会でした。私自身も、ジムなどで身体を動かすことをあえて意識したことで、思考がクリアになった感覚がありました。この感覚は、新しい発想、新製品を生み出すにはとても大事なものと感じています。

感染リスク低減のためにテレワーク勤務や時差出勤など必要な措置を講じましたが、これらを通じて得た知見を元に、より発展的な働き方に向けた転換への契機にしていこうと考えています。

Q5 来年は創立65周年となります。株主の皆様へ節目を迎えるにあたってのメッセージをお願いします。

今あるビジネスをさらに発展させることに加えて、新製品、新規事業の創出は、当社の飛躍に欠かせません。諸先輩方が築き上げられた『ライフサイエンス事業』『電子材料および機能性化学品事業』という大きな2本の柱をより強固にすると共に、次の世代に向けて新しい事業を創出し、さらに前進することが、65周年を迎えるにあたっての決意でもあります。

2021年度の当社グループの業績は、コロナ禍の影響を最低

限におさえながら、連結利益計画に対して順調に進捗しており、8月には年度計画の上方修正を行いました。株主の皆様には、今後もより一層のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



代表取締役会長
藤岡 実佐子

代表取締役社長
杉田 真一



事業概況

SEGMENTS INFORMATION

ライフサイエンス事業

電子材料および機能性化学品事業

ライフサイエンス事業全体の業績は、外部顧客に対する売上高が144億4千4百万円(前年同期比27.5%増、31億1千8百万円増)、営業利益は20億7千6百万円(同21.1%増、3億6千2百万円増)となりました。

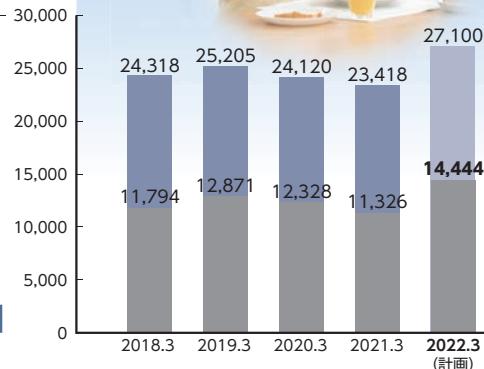
日本においては、原料価格の高騰は継続し、原料価格に連動して販売価格が変動する契約となっている製品の販売単価が上昇しました。加えて、景気の持ち直しによる国内需要の増加のほか、鹿島事業所のリンゴ酸新設備の稼働に伴いリンゴ酸の売上も輸出を中心に順調に推移し、円安の効果も加わり売上高は増加しました。海外子会社においても、中国、米国の経済持ち直しによる需要の回復、各国でのシェアアップ、販売促進の取り組みを進め、円安による円換算後の増加効果もあり、売上高は前四半期連結累計期間を上回りました。営業利益は、各国において原料価格の上昇は継続し、円安による調達価格の上昇の影響があったものの、新規設備の減価償却費は減少に転じており、売上高の増加により前四半期連結累計期間を上回り増収増益となりました。

ライフサイエンス事業

売上高

(単位:百万円)

■ 通期
■ 第2四半期



電子材料および機能性化学品事業全体の業績は、外部顧客に対する売上高が107億2千3百万円(前年同期比19.0%増、17億8百万円増)、営業利益は50億4千1百万円(同41.1%増、14億6千8百万円増)となりました。

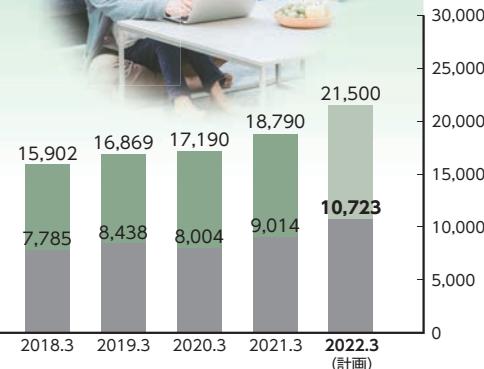
半導体市場は米中対立、半導体の供給不足等の懸念材料はあるものの、デジタル化の進展に伴うIT需要の増加により、引き続き堅調に推移しました。当社製品の超高純度コロイダルシリカは、半導体の微細化の進展に伴い採用は増加し、世界的な海運の混乱による輸出への影響があったものの売上は順調に推移しました。在宅勤務の普及によるトナー需要減退の影響を受けたナノパウダーの売上は減少しましたが、超高純度コロイダルシリカの売上増加により売上高は前四半期連結累計期間を上回りました。営業利益は、原料価格上昇の影響があるものの、売上高の増加、新規設備の減価償却費の減少、増産によるコストダウン効果により、前四半期連結累計期間を上回り増収増益となりました。

電子材料および機能性化学品事業

売上高

(単位:百万円)

■ 通期
■ 第2四半期



売上高の比率

(連結)

57.4%

144億4千4百万円

42.6%

107億2千3百万円

TOPICS 1

超高純度コロイダルシリカ 鹿島事業所起工式



2021年8月24日(火)鹿島事業所にて、超高純度コロイダルシリカ製造設備の建設工事を始めるにあたり、工事の安全と順調な完成を祈念して起工式を執り行いました。8月当時の感染状況を踏まえ、建設関連の責任者並びに当社杉田社長をはじめとする関係者のみの出席となりました。

京都事業所に加えて、鹿島事業所に新たな超高純度コロイダルシリカの製造拠点を持つことで、より一層安定した製品供給に力を入れてまいります。完成は2023年4月を予定しております。

TOPICS 3

新市場区分「プライム市場」選択

当社は、2021年7月9日付で株式会社東京証券取引所(以下「東証」)より、新市場区分における上場維持基準への適合状況に関する一次判定結果を受領し、新市場区分において「プライム市場」の上場維持基準に適合していることを確認しました。

この結果を受け、2022年4月4日に予定されている東証の新市場区分への移行において「プライム市場」を選択し、東証に対して申請することを、9月開催の取締役会にて決議しました。東証の定めるスケジュールに基づき、新市場区分の選択申請に係る所定の手続きを進めております。

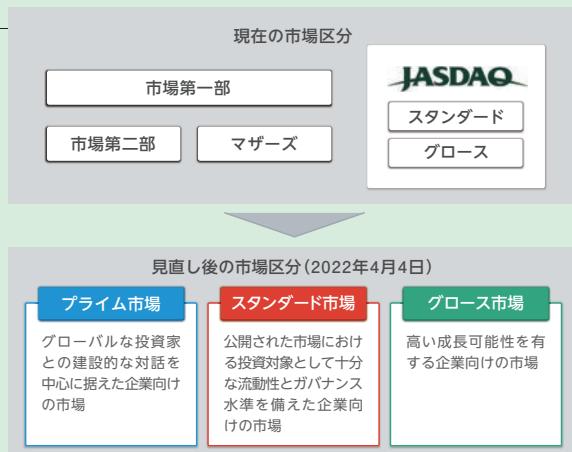
TOPICS 2

地方創生応援税制 (企業版ふるさと納税)



2021年10月25日(月)福知山市役所において、大橋市長、水口消防長ご出席の中、企業版ふるさと納税寄附受納式が挙行され、当社杉田社長による挨拶ののち目録の贈呈が行われました。「福知山市まち・ひと・しごと創生推進計画」が、2020年3月31日付けで、国から地方創生応援税制の対象計画として認定され、2千万円の寄付をさせていただきました。

* 2019年度にも同様の寄附を行い、化学消防ポンプ自動車の導入費の一部としてご活用頂きました。





連結財務諸表(要旨)

FINANCIAL STATEMENTS

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期 連結会計期間末 (2021年9月30日)	前連結会計 年度末 (2021年3月31日)
資産の部		
流動資産	48,484	45,131
現金及び預金	26,795	25,594
受取手形及び売掛金	11,924	10,546
商品及び製品	6,546	6,390
仕掛品	505	482
原材料及び貯蔵品	1,919	1,667
その他	793	449
固定資産	37,270	30,901
有形固定資産	32,094	25,924
建物及び構築物(純額)	9,673	10,022
機械装置及び運搬具(純額)	7,369	8,117
土地	6,893	6,891
建設仮勘定	7,734	453
その他(純額)	424	438
無形固定資産	2,027	2,186
投資その他の資産	3,148	2,790
投資有価証券	1,304	1,161
長期前払費用	555	225
繰延税金資産	1,012	1,113
その他	275	289
資産合計	85,755	76,032

科 目	当第2四半期 連結会計期間末 (2021年9月30日)	前連結会計 年度末 (2021年3月31日)
負債の部		
流動負債	14,919	7,836
支払手形及び買掛金	2,304	2,027
未払金	9,593	2,563
未払法人税等	1,777	1,588
その他	1,244	1,656
固定負債	2,006	2,026
繰延税金負債	163	178
退職給付に係る負債	1,540	1,534
その他	303	313
負債合計	16,926	9,862
純資産の部		
株主資本	66,708	64,271
資本金	4,334	4,334
資本剰余金	4,820	4,820
利益剰余金	58,666	55,121
自己株式	△1,112	△4
その他の包括利益累計額	2,120	1,898
純資産合計	68,828	66,169
負債純資産合計	85,755	76,032

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期連結累計期間 (2021年4月1日から 2021年9月30日まで)	前第2四半期連結累計期間 (2020年4月1日から 2020年9月30日まで)
売上高	25,167	20,340
売上原価	15,138	12,417
売上総利益	10,029	7,923
販売費及び一般管理費	3,603	3,293
営業利益	6,425	4,629
営業外収益	60	46
営業外費用	3	170
経常利益	6,482	4,505
特別利益	11	3
特別損失	18	12
税金等調整前四半期純利益	6,475	4,496
法人税等	1,987	1,410
四半期純利益	4,488	3,086
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,488	3,086

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期連結累計期間 (2021年4月1日から 2021年9月30日まで)	前第2四半期連結累計期間 (2020年4月1日から 2020年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,595	6,014
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,775	△1,558
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,998	△821
現金及び現金同等物に係る換算差額	64	△142
現金及び現金同等物の増減額	886	3,492
現金及び現金同等物の期首残高	24,835	16,083
現金及び現金同等物の四半期末残高	25,722	19,575

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

Point 1

(連結貸借対照表)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ97億2千2百万円増加し、857億5千5百万円となりました。これは主に、鹿島事業所の設備投資等に係る建設仮勘定の増加と、現金及び預金、受取手形及び売掛金の増加によるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べ70億6千3百万円増加し、169億2千6百万円となりました。これは主に、鹿島事業所の設備投資等に係る設備未払金の増加によるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ26億5千9百万円増加し、688億2千8百万円となりました。これは主に、自己株式の取得を行ったものの、利益剰余金の増加額がこれを上回ったためです。

Point 2

(連結損益計算書)

当第2四半期連結累計期間における連結業績は、外出自粛の影響を受けて落ち込んでいた果実酸類の販売が前年度から回復し、さらにリンゴ酸の輸出が好調に推移しました。また、半導体市場が引き続き好調に推移したため、超高純度コロイダルシリカの販売増が大きく寄与し、売上高は前年同期比で大幅増となりました。

一方、仕入れ価格や原料価格、更には光熱費等の生産コストの上昇がありましたが、両部門での生産増に伴うコストダウンもあり、営業利益は前年同期の実績を大きく上回りました。

Point 3

(連結キャッシュ・フロー計算書)

当第2四半期連結累計期間における連結ベースの現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、税金等調整前四半期純利益および減価償却費の発生により増加した資金を、有形固定資産の取得、法人税等の支払、自己株式の取得、配当金の支払に充てた結果、前連結会計年度末に比べ8億8千6百万円増加し、257億2千2百万円となりました。



業績ハイライト(連結)

FINANCIAL HIGHLIGHT

売上高 (単位: 百万円)



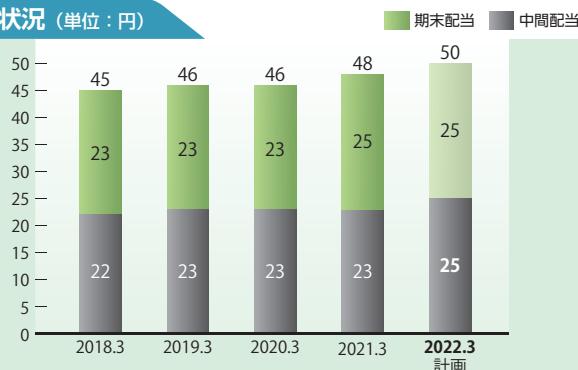
営業利益 (単位: 百万円)



償却前営業利益 (単位: 百万円)



配当の状況 (単位: 円)



第2四半期と通期における業績の推移

	2018年3月期		2019年3月期		2020年3月期		2021年3月期		2022年3月期	
	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期(計画)
売上高 (百万円)	19,579	40,221	21,310	42,074	20,333	41,310	20,340	42,209	25,167	48,600
営業利益 (百万円)	5,424	10,537	5,243	9,283	4,364	8,830	4,629	9,632	6,425	11,500
経常利益 (百万円)	5,445	10,367	5,623	9,854	4,403	8,954	4,505	9,746	6,482	11,530
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	3,767	6,592	3,883	6,881	3,013	7,014	3,086	6,808	4,488	7,900
償却前営業利益 (百万円)	6,063	12,150	6,281	12,327	6,432	13,362	7,117	14,659	8,550	16,180
1株当たり当期純利益(円)	106.11	185.67	109.38	193.81	84.87	197.56	86.92	191.75	126.59	223.49

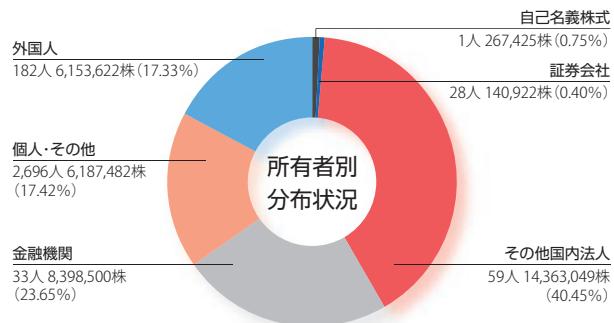
株式の状況

(2021年9月30日現在)

- 発行可能株式総数：95,000,000株
- 発行済株式の総数：35,511,000株
(自己株式が267,425株含まれています。)
- 株主数：2,999名

株主の分布

(2021年9月30日現在)



大株主

(2021年9月30日現在)

株主名	持株数	持株比率
株式会社壽世堂	5,596,265	15.88%
帝國製薬株式会社	3,328,000	9.44%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,182,700	9.03%
赤澤 庄三	3,085,965	8.76%
株式会社日本カस्टディ銀行(信託口)	2,161,200	6.13%
大阪中小企業投資育成株式会社	1,490,625	4.23%
有限会社帝産	1,375,000	3.90%
株式会社日本触媒	1,186,500	3.37%
株式会社りそな銀行	792,500	2.25%
JP MORGAN CHASE BANK 385174	765,800	2.17%

・持株比率は、自己株式数を控除して計算しています。

株価の推移





会社概要

CORPORATE PROFILE

会社概要

- 商号 扶桑化学工業株式会社
- 創業 1952年(昭和27年)
- 設立 1957年6月24日(昭和32年)
- 資本金 43億3,404万7,500円
- 本社 〒541-0043 大阪府大阪市中央区高麗橋四丁目3番10号
(日生伏見町ビル新館5階)
TEL.(06)6203-4771(代)
- 東京本社 東京都中央区日本橋小舟町6番6号(小倉ビル7階)
- 事業所
 - 新大阪事業所 大阪府大阪市淀川区新高二丁目6番6号
 - 京都事業所
 - 京都第一工場 京都府福知山市長田野町一丁目5番地
 - 京都第二工場 京都府福知山市長田野町二丁目8番地
 - 鹿島事業所 茨城県神栖市東和田20番地
 - 東京研究所 神奈川県川崎市高津区坂戸三丁目2番1号
(かながわサイエンスパークR&D棟 A206~A208)
 - 大阪工場 大阪府堺市西区築港新町三丁目27番地10
 - 十三工場 大阪府大阪市淀川区野中北二丁目10番30号
- 主要子会社
 - 青島扶桑精製加工有限公司(中国)
 - PMP Fermentation Products, Inc.(アメリカ)
 - FUSO(THAILAND) CO., LTD.(タイ)

役員

(2021年9月30日現在)

- 名誉会長および取締役
 - フアウンダー 名誉会長 赤澤 庄三
 - 代表取締役会長 藤岡 実佐子
 - 代表取締役社長 杉田 真一
 - 専務取締役 政氏 晴生
(電子材料事業部長)
 - 専務取締役 谷村 隆史
(国際事業部長)
 - 取締役 梶本 源樹
(ライフサイエンス事業部長 兼 営業企画部長)
 - 取締役 藤岡 篤
(企画開発室長)
 - 取締役 監査等委員 赤澤 敬敏(社外・常勤)
 - 取締役 監査等委員 木下 善樹(社外・独立)
 - 取締役 監査等委員 木山 静美(社外・独立)
 - 取締役 監査等委員 平田 文明(社外・独立)
- 執行役員
 - 執行役員 宮本 典和
(ライフサイエンス事業部 生産本部長 兼 新大阪事業所長)
 - 執行役員 伊藤 裕之
(管理本部長 兼 人事部長)
 - 執行役員 山川 恭弘
(電子材料事業部 電子材料本部長 兼 営業開発部長)

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月末日まで
- 定時株主総会 毎年6月開催
- 基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当金 毎年3月31日
中間配当金 毎年9月30日
そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

- 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

- 株主名簿管理人事務取扱場所 大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) ☎0120-782-031

(インターネットホームページURL) <https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>

【株式に関する住所変更等の届出およびご照会について】

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。

証券会社の口座のご利用がない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます)を開設しています。特別口座についてのご照会および住所変更等の届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

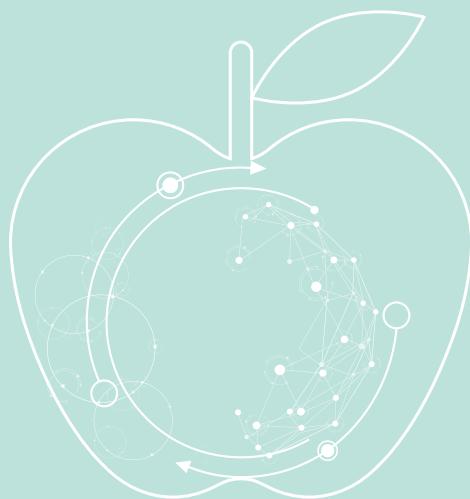
- 公告の方法 電子公告とする(<https://fusokk.co.jp>)

- 上場金融商品取引所 東京証券取引所市場第一部

【利益配分に関する基本方針及び配当】

当社は、剰余金の処分につきましては、長期にわたり安定的に株主の皆様へ報いるという基本方針のもと、企業体質の強化ならびに今後の事業展開を勘案して行うこととしております。内部留保金につきましては、将来の事業成長のための設備投資および研究開発に充当していきます。

当期の中間配当金につきましては、前期と比べ2円増配の、1株につき25円とさせていただきます。期末配当金は1株当たり25円とさせていただきます、当期の年間配当金につきましては、1株につき50円を予定しています。



FUSO  扶桑化学工業株式会社

<https://fusokk.co.jp>

VOC
FREE T&K

VOC(揮発性有機化合物)成分フリーの
インキを使用して印刷しました。